氏名	久保田圭祐	部署	研究開発センター	職名	特任助教
研究分野	運動器理学療法，基礎理学療法，地域理学療法				
学位	博士（健康科学）				
学歴	平成21年4月-平成25年3月　埼玉県立大学 保健医療福祉学部 理学療法学科 平成28年4月-平成30年3月　埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究科 リハビリテーション学専修 平成30年4月-令和4年3月　埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究科 博士後期課程				
経歴	令和4年4月- 埼玉県立大学 研究開発センター 兼 保健医療福祉学部　特任助教 令和4年12月-令和6年3月 埼玉大学大学院理工学研究科　特任准教授				
所属学会（役職）	日本理学療法士協会，American physiological society, Osteoarthritis Research Society International, IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, Society for the Neural Control of Movement				

【2023年度実績】

１．研究業績

（１）著作

	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					

（２）論文

	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ﾍﾟｰｼﾞ	著者、編者名	発表等年月
1	Muscle co-activation in the elderly contributes to control of hip and knee joint torque and endpoint force	共著	あり	〇	Scientific Reports 13 (1)	Keisuke Kubota, Moeka Yokoyama, Hiroki Hanawa, Taku Miyazawa, Keisuke Hirata, Katsuya Onitsuka, Tsutomu Fujino, Naohiko Kanemura	2023.5.2
2	Role of raising the upper limb of the non-rising side when performing rising movement from bed	共著	あり	〇	Scientific Reports 13 (1)	Keisuke Hirata, Hiroki Hanawa, Taku Miyazawa, Keisuke Kubota, Moeka Yokoyama	2023.7.16
3	The effect of orthosis management on joint instability in knee joint disease: A systematic review	共著	あり	〇	Prosthetics and Orthotics International	Kenji Murata, Takuma Sakakida, Sora Kawabata, Moeka Yokoyama, Yuri Morishita, Shunsuke Kita, Keisuke Kubota, Takuma Kano, Takuma Kojima, Hidenobu Terada, Chiharu Takasu, Naohiko Kanemura	2023.9.14
4	Effects of sampling frequency and interpolation preprocessing on inter- and intra-study comparability of stabilometric variables	共著	あり	〇	Biomedical Signal Processing and Control 90	Moeka Yokoyama, Taku Miyazawa, Hiroki Hanawa, Keisuke Hirata, Hikaru Yokoyama, Keisuke Kubota, Tsutomu Fujino, Naohiko Kanemura Haruka Kaneko, Arepati Adili, Muneaki Ishijima	2023.12.21
5	Changes in caregiving risk and motor function among older adults participating in community gatherings in Koshigaya city	共著	あり		Journal of Physical Therapy Science 36(3)	Takaya Abe, Keisuke Kubota, Takahito Nakamura, Yoshinori Kitabatake, Hiroo Furusawa, Toyohiro Hamaguchi, Naohiko Kanemura, Yayoi Amakusa	2024. 3.1

6	特集 運動器理学療法をどう捉えるか -統合的戦略で自らの枠を乗り越える　メカニカルストレスと理学療法	共著			理学療法ジャーナル 57(9)	金村尚彦，久保田圭祐，加納拓馬，森下佑里，岡優一郎，小曽根海知，峯岸雄基，村田健児	2023.9
7	運動器疾患患者の理学療法における橋渡し研究と臨床展開の課題	共著			理学療法 41(1)	金村尚彦，久保田圭祐，鬼塚勝哉	2024.1.28

（３）学会発表

	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は〇印）	発表等年月
1	Varification of the Association Between Muscle Co-contraction and Endpoint Force in the Elderly	共同	45th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Sciety, Sydney	〇Keisuke Kubota, Moeka Yokoyama, Toyohiro Hamaguchi, Naohiko Kanemura	2023.7
2	変形性膝関節症者の歩行における筋活動パタンはpreferred directionと異常な複数関節トルクから再現しうるか	共同	モーターコントロール研究会，東京	〇久保田圭祐，宮澤拓，塙大樹，金村尚彦	2023.8
3	歩行時の股・膝関節トルク変化から下肢筋活動のpreferred directionを評価できるか -若年成人・高齢者・変形性膝関節症者での予備的検討-	共同	日本基礎理学療法学会学術大会，広島	〇久保田圭祐，横山萌香，鬼塚勝哉，平田恵介，塙大樹，宮澤拓，藤野努，金村尚彦	2023.12

（４）その他

	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は〇印）	発表等年月
1	該当なし				

２．競争的資金等の研究

	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省 科学研究費補助金 (研究活動スタート支援)	軽度変形性膝関節症者における脚力発揮パターンに基づく筋同時収縮メカニズムの解明	研究代表者	2022.4-2025.3

３．教育業績

（１）講義

	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	運動学入門		1コマ	理学療法学科1年生に対して歩行分析について講義を行った．実際の疾患者の歩行動画を例に，これから本格的に学習が始まる歩行分析のポイントについて説明した．
2	理学療法学概論		1コマ	自身のこれまでのキャリアを通じて，理学療法士としての役割に対する理解を深める講義を行った．
3	障害基礎解析学特論		1コマ	自身のこれまでの研究に関する内容により，学生の今後の研究活動に活かせる講義を行った．

（２）演習

	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	該当なし			

（3）実習

	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	生理学実習(理学療法・作業療法)		8コマ	実習課題のひとつを担当し，学生が主体的に実習できるように実施方法を工夫するとともに，基盤となる座学の知識と結びつくような指導を心がけた．

（4）論文指導

	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	該当なし		主指導　　名	副指導　　名

（5）その他

	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	春日部市立看護専門学校（非常勤講師）	2023.4-2024.3	人体の構造と機能に関する講義
2	帝京科学大学（非常勤講師）	2023.4-2024.3	運動学実習の講義および実技（12コマ）
3	人間総合科学大学（ゲスト講師）	2023.4-2024.3	理学療法学研究法に関する講義

4．社会貢献活動

（1）講演会、研修会、公開講座等の講師

	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	該当なし			

（2）国、自治体、学術団体等における委員等

	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期
1	該当なし		

（3）ジャーナリズムでの発言

	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		

（4）その他

	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			

5．学内運営

	項目	内容	期間
1	該当なし		

6．受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）

	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		

7．特許の取得

	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		

8．特記事項

1	該当なし